



長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ

Team  
**NAOTOMI**

直富商事株式会社

本社／〒381-0022 長野県長野市大豆島3397番地6  
TEL:026-222-1880 FAX:026-222-1881  
<https://www.naotomi.co.jp>



▲HPはこちら



▲インスタはこちら



# 2024

直富商事株式会社

## CSR報告書

NAOTOMI Corporate  
Social Responsibility  
Report 2024

事業活動や社会貢献活動を通じて  
必要とされる存在であり続けるために、  
果敢に挑戦し続けます。

代表取締役

木下 繁夫



AI を駆使した産業廃棄物中間処理工場が、本社第 3 工場として 2024 年 2 月末稼働を始めました。この工場は 2021 年 7 月の地滑り災害を受け全損した秋古工場選別棟に代わり新たに建設した新工場で、化石燃料の代替である RPF (Refuse derived paper and plastics densified Fuel / 品質基準 JIS Z7311:2010) の製造も新たに開始しました。RPF は石炭よりも約 33%の CO<sub>2</sub>排出量低減効果がある高品位燃料であると共に、品質が安定しており高カロリー、且つハンドリング性に優れ他燃料と比較して経済的であり、環境にも優しい時代が求める燃料です。

当社では更に、既存設備を更新し高純度バイオディーゼル燃料 (Bio Diesel Fuel) 製造の取り組みも開始しています。従来より長野県内から発生する植物性廃食用油を原料に BDF を製造しておりましたが、それらを高純度化し、より多種多彩な活用方法を可能とした CO<sub>2</sub>削減に直接寄与する

軽油代替燃料です。高純度 BDF は地元地域の需要に合わせ、今後も力点を置いていきたいと考えています。また、EVトラックも導入いたしました。通常の稼働に問題はなく、当社が推し進める脱炭素・カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミー等への取り組みの一環として今後も増車を予定しています。

コロナ禍が明け、小学生をはじめとする見学者の受け入れを再開、フードバンクへの積極的な寄付の継続、地域こども食堂への協力、長野県「職場いきいきアドバンスカンパニー」認証更新及び「信州 ESD コンソーシアム」への取り組み等々地元地域との関わりを進めてまいりました。我々は持続可能な社会・経済を構築するために必要とされる企業でありたいと考えと共に、そうあるよう果敢に挑戦し続ける企業を目指してまいります。Just Do It !

## 経営理念

- 地域に愛され、必要とされる会社とする。
- 社員が物心共に幸福と思える会社とする。

## 行動指針

- 安全・遵法第一、営業第二。
- 全てにおいて、常に顧客目線で考え、行動する。
- 責め心の無い厳しさ、馴れ合いでない優しさを持ち続ける。

## 経営ビジョン

### 1. 市場・社会でのポジション

- 長野県環境関連産業のリーディングカンパニーとなる。
- 経営目標達成により長野県内における当社の存在感を高め、顧客満足度 No.1 企業を目指す。

### 2. 事業運営の将来像

- 当社が競争優位性を確立できる事業分野を中心に長野県内をマザーマーケットとして広域で事業展開する。
- 時代の変化に合わせて柔軟に中核事業の事業モデルを変革していく。
- 労働集約型業務を改善し、作業効率化・省力化・省人化を推し進め、社員 1 人当りの生産性を業界トップクラスにする。

### 3. 組織と人のあり方・関係

- 社員の育成計画を明確に設定したうえでジョブローテーションを展開し、組織・人材の活性化を図る。
- 長時間労働を排除し、勤務時間内に最大限の成果を追求する企業文化を定着させる。
- 管理職へ権限を委譲し、経営スピードを上げると共に将来の経営を担う人材を育成する。
- 受け身、指示待ちではなく“自ら考え行動し挑戦する”事が重視される職場風土へ変革する。
- 人を活かし、育てる企業風土を醸成する。

## 経営目標 (2024年度)

売上高 176億円 経常利益 10.0%以上

CO<sub>2</sub>削減 ①使用電力に起因するCO<sub>2</sub>の(みなし)排出量をゼロにする  
②使用燃料によるCO<sub>2</sub>排出量10%分の削減に寄与する

2026年度末  
達成目標

## 会社概要

会社名 : 直富商事株式会社  
本社所在地 : 〒381-0022  
長野県長野市大豆島3397番地6  
代表者 : 代表取締役 木下 繁夫

設立 : 1975年3月10日(創業 1948年)  
資本金 : 45,000千円  
売上高 : 164億19百万円(2024年 2月末現在)  
従業員数 : 687名(2024年 2月末現在)

## サステナビリティの取組み

**私たちは、事業活動を通じて社会課題の解決に取り組み、サステナブル社会の実現に貢献します。**

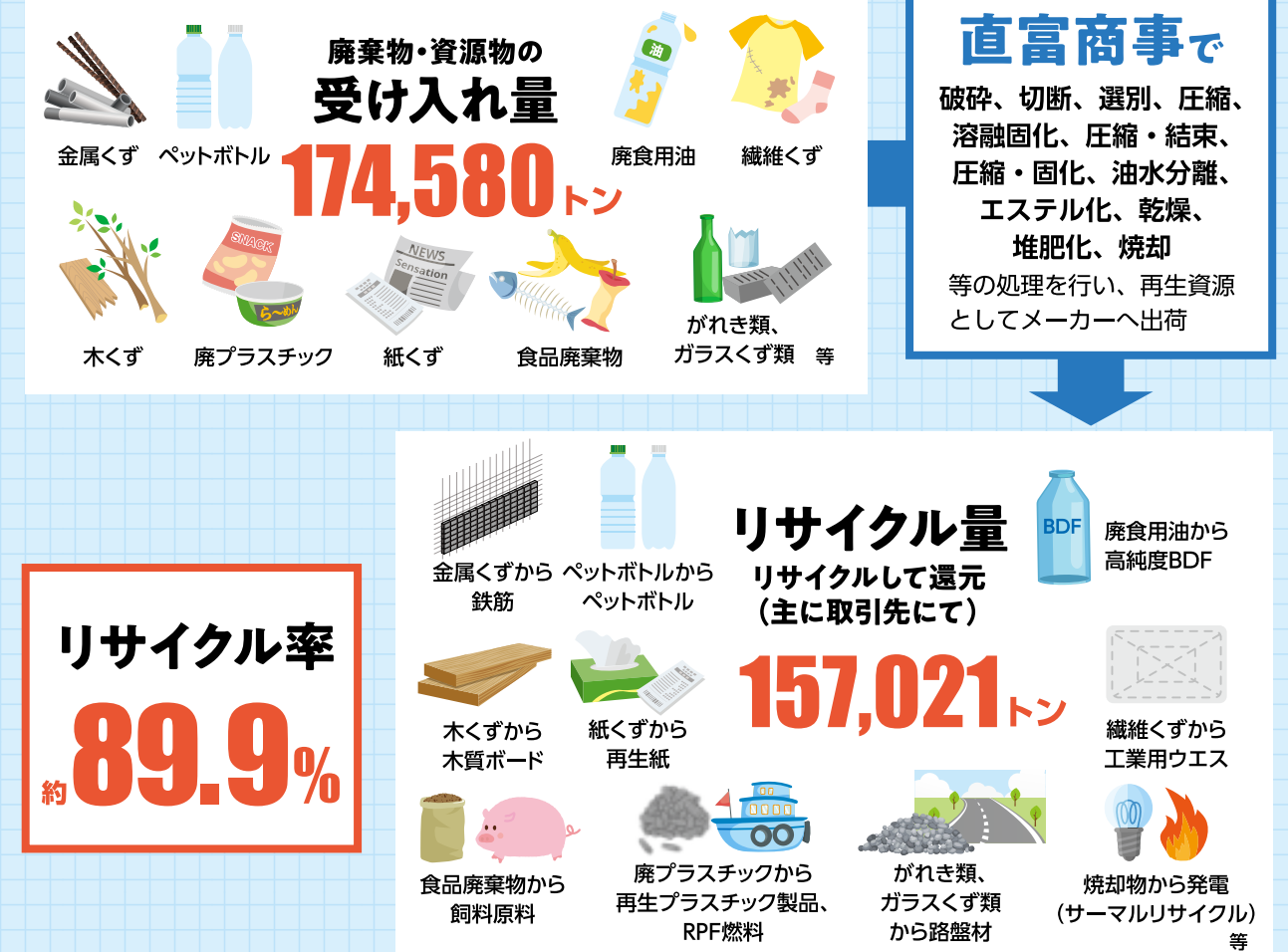
- |                  |                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>1. 環境への配慮</b> | 私たちは、環境への配慮を重視し、廃棄物の削減、リサイクルの促進、省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入等、環境保護に向けた取組みを行っています。具体的には、AI 及び新技術を活用した廃棄物の高度選別処理を行い、高品質の固形燃料（RPF）の製造、CO <sub>2</sub> 排出量ゼロカウントの高純度 BDF（バイオディーゼル燃料）の製造、EV・ハイブリッド車両の導入、工場やオフィスのエネルギー効率化、排出物の適切な処理、環境に配慮した製品の開発等が挙げられます。 |
| <b>2. 社会貢献活動</b> | 私たちは、地域社会や社会全体への貢献活動に積極的に取組んでいます。特に子どもたちへの支援活動は食糧支援、教育支援、健康支援、スポーツ・文化活動の支援等、子どもたちの将来の可能性を広げ、社会の発展に貢献する重要な役割と考えて継続的に取組んでいます。                                                                                                                 |
| <b>3. 従業員の福祉</b> | 私たちは、常に従業員の健康と安全を最優先に考え、働きやすい環境の整備や福利厚生の実施を図っています。健康診断再検査の推奨・ストレスチェック100%実施等の取組みが評価され、健康経営優良法人に認定されました。また、労働条件の改善やキャリア開発支援等、従業員の生活と働き方の向上にも取組んでいます。                                                                                         |
| <b>4. 透明性と責任</b> | 私たちは、企業の透明性と責任を重視し、持続可能な事業運営を行っています。経営方針や CSR（企業の社会的責任）活動の情報を公開し、ステークホルダーとのコミュニケーションを大切にしています。                                                                                                                                              |



長野県 SDGs推進企業（SDGsと企業活動を関連付け、具体的なアクションを進める県内企業等を長野県が認定する制度）に登録されています。  
SDGs達成に向けた重点的な取組みと 2030 年に向けた指標を掲げています。

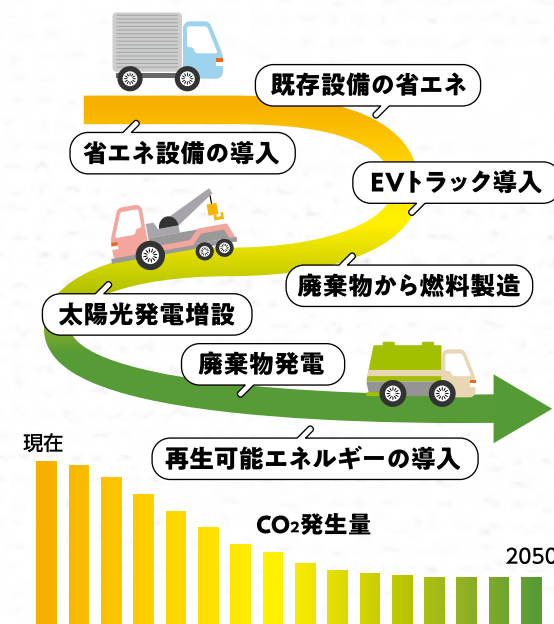
| SDGs達成に向けた重点的な取組み                       | 2030年に向けた指標                                                                                                                                                      | 関連する目標 |        |        |       |       |       |                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 受入れた廃棄物・資源物の<br>リサイクル率向上                | リサイクル率: <b>90%達成</b><br><table border="1"> <tr> <th>2021年度</th><th>2022年度</th><th>2023年度</th></tr> <tr> <td>87.4%</td><td>88.3%</td><td>89.9%</td></tr> </table> | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 87.4% | 88.3% | 89.9% | <div>13 気候変動<br/>持続可能な開発<br/>のための気候<br/>変動対策</div> <div>14 海の豊かさ<br/>を増やす<br/>持続可能な開発<br/>のための海の<br/>資源の持続的<br/>かつ公平な管理<br/>と保護</div> <div>15 陸の豊かさ<br/>を高める<br/>持続可能な開発<br/>のための陸の<br/>生態系の保護<br/>と持続可能な<br/>利用の促進</div> |
| 2021年度                                  | 2022年度                                                                                                                                                           | 2023年度 |        |        |       |       |       |                                                                                                                                                                                                                           |
| 87.4%                                   | 88.3%                                                                                                                                                            | 89.9%  |        |        |       |       |       |                                                                                                                                                                                                                           |
| リサイクル教育機会の充実<br>(リサイクル授業、出前授業、小学生見学受入れ) | 件数:年間合計 <b>30件</b><br><table border="1"> <tr> <th>2021年度</th><th>2022年度</th><th>2023年度</th></tr> <tr> <td>11件</td><td>15件</td><td>20件</td></tr> </table>         | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 11件   | 15件   | 20件   | <div>4 質の高い教育<br/>をみんなに<br/>持続可能な開発<br/>のための教育<br/>の質を高める</div>                                                                                                                                                           |
| 2021年度                                  | 2022年度                                                                                                                                                           | 2023年度 |        |        |       |       |       |                                                                                                                                                                                                                           |
| 11件                                     | 15件                                                                                                                                                              | 20件    |        |        |       |       |       |                                                                                                                                                                                                                           |
| 社員の健康管理<br>再検査実施率の向上                    | 再検査実施率: <b>80%</b><br><table border="1"> <tr> <th>2021年度</th><th>2022年度</th><th>2023年度</th></tr> <tr> <td>42%</td><td>44%</td><td>49%</td></tr> </table>         | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 42%   | 44%   | 49%   | <div>3 健康な生活<br/>をみんなに<br/>持続可能な開発<br/>のための健康<br/>をこころえ、増<br/>進させる</div> <div>8 豊かさを<br/>増進させる<br/>持続可能な開発<br/>のための経済<br/>の持続的な増<br/>進と雇用の創<br/>出</div>                                                                   |
| 2021年度                                  | 2022年度                                                                                                                                                           | 2023年度 |        |        |       |       |       |                                                                                                                                                                                                                           |
| 42%                                     | 44%                                                                                                                                                              | 49%    |        |        |       |       |       |                                                                                                                                                                                                                           |

## 2023年度リサイクル率



## カーボンニュートラルの取組み

## カーボンニュートラルに向かって



## CO<sub>2</sub>削減の為の取組み

## ●事務所・工場設備のCO<sub>2</sub>削減

事務所には照明や空調、工場ではリサイクル設備等に多くの電気が使われています。照明の LED 化、空調のフィルター清掃や省エネ機器の設置、リサイクル設備のメンテナンス・更新、太陽光発電の増設等により CO<sub>2</sub>削減を目指します。

## ●サーキュラーエコノミーの推進

AIを活用した先進的な選別ラインを導入し、廃棄物を素材別に分別します。これらは一次的な中間処理に留まらず、更に加工して固形燃料等を製造します。また、今後発生が予測される多種多様な廃棄物のリサイクルにも積極的に対応してまいります。

### ●収集・運搬車両のCO<sub>2</sub>削減

EVトラック等環境性能に優れた次世代トラックの導入を行うと共に、エコドライブの推進、運搬効率のアップ、自社車両整備工場を活用した車両点検・整備の徹底で運搬量当たりのCO<sub>2</sub>発生量を削減します。

## 2050脱炭素化に向けた未来を実現します

2021年7月に発生した地滑り被害を受け、秋古工場選別棟が被災してから2年半、長野市大豆島に国内最新鋭の廃棄物高度選別処理工場（本社第3工場）を新設、SDGsに向けた新たな取り組みを開始すると共に復興への第一歩を踏み出しました。この本社第3工場は、AIや新技術を活用した廃棄物の高度選別処理と、廃棄物を原料とする固形燃料（RPF）の製造を主にを行います。環境への負荷を最小限に抑えつつ、再生可能なエネルギー資源の活用を促進し、2050脱炭素化に向けた未来を実現します。



### A-line（高度機械選別）



#### A-line

高度機械選別ラインへ流す廃棄物は、自動選別機能を効果的に発揮させる為、まずは専用の破砕機に通し均一サイズに破砕し貯留されます。

細粒物ラインは、高度選別設備の複数個所より取り除いた篩下残渣から更に金属と軽量物を取り除きます。発生直後の篩下残渣は土砂や金属、焼却物等の様々な素材が細かく混合しており、従来は再生処理が大変困難でしたが、当社が導入した専用ラインにより、廃棄物の再資源化が可能となりました。



機械選別機により分離された軽量物は軽量物ラインに送られ、廃棄物の素材を瞬時に判別し、RPFに適さない素材を除去する光学選別機に通します。不適物を除去した軽量物は RPF 製造の B ラインへ自動搬送されます。



機械選別機により分離された重量物は自動選別ラインに送られ、金属類を除去した後、AI 搭載廃棄物選別ロボットによる自動選別を行います。このロボットは人工知能を活用し、指定した対象物をピックアップする最新技術です。選別精度を高めると同時に人為的なミスを防ぎ、安全を確保しながら工場作業の省人化・効率化を実現しました。



### B-line（固形燃料「RPF」製造）

#### B-line

A ライン（高度機械選別）から選別され、自動搬送された RPF 向け原料は B ライン（RPF 製造）に送られ、一軸破砕機による前処理・定量供給機を経て成型機に投入され RPF 燃料となります。当社では年間 3000t の RPF 製造を行い、国内製紙メーカー各社に供給いたします。3000t の RPF 製造により、重油換算およそ 2500kl、CO<sub>2</sub>発生量は石炭比 33%削減できる計算です。なお、2 基目導入の主要手続きも終わっており、2025 年 4 月には年間 6000t 体制へと生産を拡大します。



RPF→



### C-line（単独二軸破砕機）

#### C-line

単独二軸破砕機では、主としてリサイクル向け木くずと安定型埋立て向け及び単品廃棄物を破砕します。この破砕機は世界初となるインバーターに拠る同時二軸制御破砕機で、圧倒的な破砕力を備えたエネルギー効率の良い電動式破砕機です。電動モーターを動力源とし、騒音・振動・粉塵の発生は殆どなく、広範囲な破砕が可能となりました。



光学選別機により、RPF に適しないと判断された軽量物は圧縮結束され、輸送効率を向上させたのち当社秋古工場で焼却処理を行います。将来的にはこれら原料も B グレード RPF 向けとして活用する計画です。

### 石膏ボード選別機

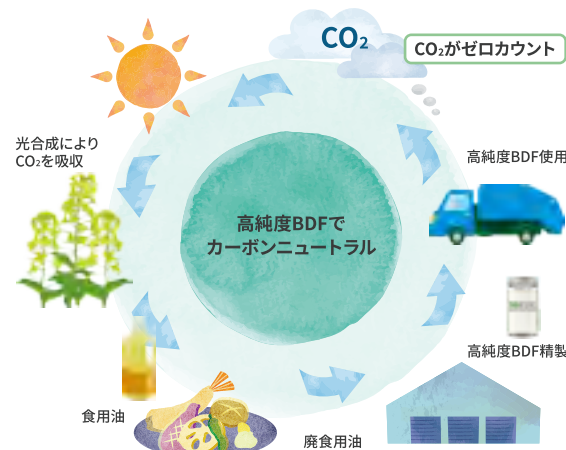
建設現場から排出された端材石膏ボードや解体現場から取り外された石膏ボードは、専用の選別機で選別し、リサイクル可能なものは製造工場へ再生原料として納入します。



2050 脱炭素化社会実現へ向けて、本社第3工場の高度選別と脱炭素への取り組みは、排出事業者様の SDGs 対策に必ずお役に立てると考えています。また、将来の人手不足に対応するよう設計された工場であり省力化・省人化を図っています。今後 AI の高度

化とその活用により労働力不足に更に対応した体制となる見込みです。処理能力の大幅な向上・廃棄物処理の脱炭素化・リサイクル率の向上等の強みを最大限活かし、お客様と地域のニーズに合わせ、廃棄物処理を通じて社会に貢献いたします。

## 特集2 高純度BDFの製造



### CO<sub>2</sub>排出量がゼロカウント

市場事業所に設置していたBDF製造機を最新の高純度BDF製造機に入替えし、世界最高品質の高純度バイオディーゼル燃料（BDF）の製造が可能となりました。BDFの使用により排出されたCO<sub>2</sub>は、原材料の植物が成長過程で吸収したCO<sub>2</sub>であるため、実質排出量はゼロカウントとなります。また、天ぷら油を再生利用するため廃棄物の減量にも繋がります。

### 輸送部門への適用

高純度バイオディーゼルは、ディーゼルエンジンで使用できる燃料であるため、自動車・トラック・バス・重機等の車両へ軽油代替燃料として使用する事が可能です。これにより、輸送部門における化石燃料の使用量を減らし、炭素排出量を大幅に削減する事が可能となる為、化石燃料の消費を抑え脱炭素化を実現し、環境への負荷を軽減する手段として今後更に成長が見込まれる分野です。



### 2050年の脱炭素目標に向けて

高純度バイオディーゼル燃料の精製を開始した事で、再生可能エネルギー供給におけるリーダーシップを発揮し、地球環境の保護に貢献することが今まで以上に可能となりました。特に北信越地区においては製造者も限られることから、当社独自の取り組みとして各方面より注目されています。



## 特集3 電気自動車の導入



### ゼロ・エミッション社会の構築

地球温暖化等の気候変動が世界中で大きな問題となっている中、多数の車両を運行する企業としての社会的責任を果たす為、また環境への配慮を最優先と考え、脱炭素に向けた取組みの一環として電気自動車（EV）のトラックを導入しました。2050年までに脱炭素社会を実現させる事を宣言している日本において、走行時にCO<sub>2</sub>を全く排出しない電気自動車（EV）の普及は、温室効果ガスの排出量を大幅に削減し、気候変動に対する一環として重要な役割を果たすと共に、カーボンニュートラル化に貢献する有効な手段になると考えています。

当社は日本が掲げる目標の実現に向かって、引き続き電気自動車（EV）やハイブリッド車等のエコ車両の導入を推進してまいります。

### 電気自動車（EV）のメリット

#### 1.環境への貢献

走行中にCO<sub>2</sub>を排出しない為、大気汚染や温室効果ガスの削減に貢献し、環境負荷が少ない

#### 2.燃料費の削減と持続可能な資源利用

電気は一般的にガソリンよりも安価なエネルギー源で、EVの普及により、化石燃料の使用が削減され、石油や天然ガス等の有限な資源の消費が抑制される

#### 3.静音走行

電気モーターは内燃機関よりも静かで振動も少ない為、運転時の快適性が向上し、トルクが一定に発生する為、加速が滑らかでスムーズ

#### 4.メンテナンスコストの削減

エンジンやトランスミッション等の部品が少ない為、メンテナンスが比較的簡単で安価であり、ブレーキの摩耗が少ない為、ブレーキパッドの交換頻度も少ない

電気自動車（EV）の普及には課題も多くありますが、今後ますます需要が高まると予想されています。

## 発火等の危険がある物は分別してください

リチウムイオン電池・電池使用製品は、強い衝撃が加わると発火の恐れがあります。破砕・選別等の処理時に混入すると発火し大変危険です。全国の廃棄物の収集車両や処理施設では、火災が多数発生しております。その為、当社では「発火等の危険がある物」と他の廃棄物が混合したものの受入れは

行っておりませんので、ご理解とご協力をお願い致します。「発火等の危険がある物」はペール缶などに入れ他の廃棄物と区別した保管をお願いします。なお、「発火等の危険がある物」の処理に関しましては、適正な処理方法をご提案させていただきますので、当社営業担当までお問合せください。

**リチウムイオン電池・電池使用製品は、非常に危険です  
他の廃棄物と混ぜないで正しく分別してください**

### 発火等の危険がある物

電池類、電動バッテリー、ガスボンベ、ライター、油や溶剤等の可燃性物質が付着したウエス等



### リチウムイオン電池はいろいろな充電式の小型家電製品に使われている！





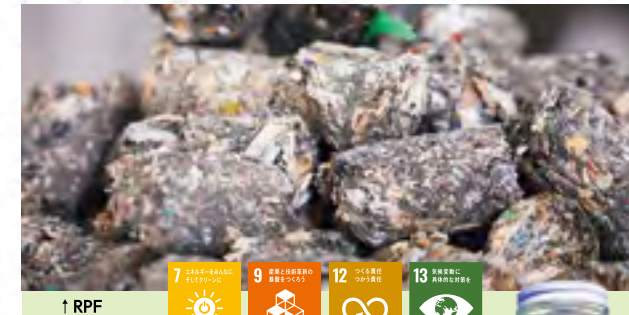
## 産業廃棄物

産業廃棄物の収集運搬及び中間処理を行います。リサイクル可能品目は中間処理後に再生利用します。高精度な選別を行う事で廃棄物の埋立量を減らし、地球環境保全に貢献しています。



## 一般廃棄物

事業系一般廃棄物、家庭の引越しごみ・粗大ごみの収集運搬等を行っています。一般廃棄物の収集運搬は衛生的な生活を保つ為のエッセンシャルワークです。また、行政サービスの民間の受け皿としてソファ・マットレス・タイヤ・家電の受け入れを行っています。



## 化石燃料代替／燃料製造

産業廃棄物から RPF を製造し、国内製紙メーカーに納入します。使用済み油から高純度バイオディーゼル（BDF）を精製し、ディーゼルエンジンを搭載した自動車やトラック、重機やフォークリフトの燃料として使用します。RPF と高純度 BDF により、化石燃料の使用を減らし、温室効果ガスの排出削減に貢献します。



## プラスチック

資源確保、廃棄物処理問題の解決に向けた取組みとして、使用済みプラスチックを回収・加工し、メーカーへ納入します。



## 古紙・機密書類

地域の資源回収や店舗、事業所等から排出される古紙類・機密書類を回収・加工し、メーカーへ納入します。その後新しい紙にリサイクルされます。



## 古着

回収した古着は選別され、東南アジアを中心に輸出します。日本の古着は質が良く、リユースには最適です。基準に満たない古着は、工業用ウエス等に使われます。



## ビルメンテナンス

設備管理、清掃業務により、建物を総合的に管理します。皆様が快適に利用出来るよう、衛生面や設備面の保守管理を行っています。



## 金属スクラップ

金属スクラップを回収・加工し、電気炉メーカー等へ納入します。選別・加工を行う事で品質アップを図っています。



## 解体工事

ビル・工場・家屋等の建物の解体工事を行います。解体現場から出た金属・木材・コンクリート等は資源としてリサイクルしています。



## 食品廃棄物

ホテル、スーパー、コンビニ等から排出される食品廃棄物を、乾燥・肥料化し、飼料・肥料として出荷します。「もったいない」の声に応え、食品を循環の輪で繋げています。(肥料取締法に基づく製造登録済み)



## 技術研究・分析・環境計量証明

環境分野におけるリサイクルを中心とした研究開発、環境計量証明（水質及び土壌の濃度・騒音・振動）及び廃棄物の性状分析を行います。将来発生が見込まれる処理困難物のリサイクル技術確立の為、日々研究に打ち込んでいます。

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

時代の変化や課題に迅速に対応し、事業を通してSDGs（持続可能な開発目標）の実現を目指します。



## フードバンクに協賛

家庭内にある使い切れない缶詰やレトルト食品、防災備蓄品の入替食品等を持ち寄り、支援を必要としている人々や福祉施設・困窮者支援団体に食品をお届けする活動「フードバンク」に協力させて頂きました。2023 年度は 5 回実施し、合計で 138kgの食品を寄贈いたしました。

フードバンクへの協賛は、地域社会における食料の安全保障に貢献するだけでなく、企業や個人にとっても社会貢献活動の一環として意義深いものとなります。



## 「信州こどもカフェ（こども食堂）」に寄付

「信州こどもカフェ（こども食堂）」に寄付させて頂きました。一般的には「こども食堂」と呼ばれ、長野県では、様々な子どもの居場所の取組みの中で、学習支援、食事提供、

悩み相談、学用品のリユース等複数の機能を提供し、月 1 回以上計画的に開催されているものを「信州こどもカフェ」という愛称で呼んでいます。今後も支援を必要とされる方々の為に、継続的に協力してまいります。



## 長野高校フィールドワークに協力

長野県立長野高等学校が実施する「長野グローバルプロジェクト」の一環として、当社を訪れた1年生 5 名を対象としたフィールドワークが行われました。このプロジェクトは、長野県が掲げる「SDGs 未来都市」を目指し、グローバルファシリテーターの育成を目的としており、社会課題に対する関心や教養、コミュニケーション能力を高めることを目指しています。今回のフィールドワークでは、「食品ロス」に焦点を当て、当社の食品リサイクル事業について学習しました。具体的には、食品の堆肥化や肥料化、BDF（パイオディーゼル燃料）の製造、フードロス削減の取組み等について学びました。生徒たちは熱心にメモを取りながら質問をし、積極的に学ぼうとしていました。

当社の事業が今後の研究や取組みにお役立て頂ける事を願っています。



## 「子ども学習支援プロジェクト」に協賛

「子ども学習支援プロジェクト※」に協賛させて頂きました。社員が家庭にある未使用の文房具を持ち寄り、箱いっぱい集まった文房具を事務局へお渡ししました。これからの信州を支える子どもたちにお役立て頂けたら幸いです。

※「子ども学習支援プロジェクト」は、満足に文房具を購入出来ないご家庭もある状況の中、長野県在住で支援を必要とするご家庭や子ども支援団体を対象に学習品（文房具）を送り、子どもたちの学習支援をするプロジェクト



## 小学4年生向けリサイクル授業の開催

リサイクルの重要性やリサイクル工場の仕組みを学んで頂く為の工場見学を、今年度は 16 校の小学校の皆さんと実施しました。

次世代を担う皆さんへの教育機会の提供は、廃棄物を扱う当社の社会的責任の一つと考え、今後も取組みを継続してまいります。



## 「長野県学校科学教育奨励基金」に協力

公益財団法人長野県学校科学教育奨励基金に協力させて頂きました。この基金は、長野県内の小・中・高等学校及び特別支援学校から申請される自然科学、人文科学等に関する研究費用に対して奨励金を交付する事で科学教育振興に寄与されております。



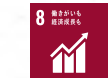
## 工業高校生ロボットコンテストに協賛

長野県の工業系高校生によるロボットコンテスト『ROBOCON IN 信州 2023』が 10 月 7 日に開催されました。工業高校生ロボットコンテストとは、若手の STEM（科学、技術、工学、数学）教育を促進し、次世代の技術者やイノベーターの育成に貢献する素晴らしい取組みで、当社はその活動に賛同し、協賛させて頂きました。

## 「緑の募金」に協力

公益財団法人長野県緑の基金による「緑の募金」に協力させて頂きました。

「緑の募金」とは、企業や団体、市民一体となって、多くの「人と人」「人と森」「人と地域」を繋げる活動を推進しており、森林整備や里山の手入れ等の森林づくり（森づくり）、森林ボランティアリーダー育成や緑の少年団の育成等の人づくりに活用されています。



## 国道19号線沿い緑地帯花壇の植え替え

6 月と 11 月に秋古工場の国道 19 号線に隣接する緑地帯花壇への花の植え替え作業を行いました。この活動は、毎年恒例となっている「ボランティア・サポート・プログラム」の一環として実施されました。当社は、地域社会に対する貢献活動の一環として、この付近の緑地帯の清掃や美化活動を積極的に行っています。

花の植え替え作業では、地域の美化と環境保全を目指し、丁寧に花を植え付けることで、地域の景観を向上させました。これからも環境美化をモットーに、花と緑に囲まれた地域を目指して活動を続けてまいります。



## 能登半島地震の被災地への義援金を寄付

令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震により、お亡くなりになられた方々に心よりお悔やみを申し上げますと共に、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地での復旧、復興支援に役立てて頂く為、社員有志による募金を実施し、義援金300万円を萩原健司長野市長にお渡ししました。この義援金は「令和 6 年能登半島地震災害義援金」として被災地の方々の生活支援等に役立てられます。



## ごみゼロ運動及びクリーン作戦に参加

毎年春と秋に行われている長野市大豆島地区のごみゼロ運動及びグリーン作戦に地元企業として当社からも社員が参加し、地域の皆様と共に大豆島地区沿道や長野市落合橋下の河川敷のゴミ拾い及び除草作業を行いました。



## 長野市中央倫理法人会様主催の一斉清掃活動に参加

長野市中央倫理法人会様主催の一斉清掃活動が行われ、当社も参加し、加盟団体の皆様と共に長野駅周辺のごみ拾い等を行いました。



## 環境懇談会を開催

各工場の地元区にて環境保全懇談会を開催いたしました。1年間の活動実績、資源物取扱実績等の報告を行い、質疑応答と意見交換会を行いました。活発な意見交換を行う事が出来、有意義な時間となりました。頂きました貴重なご意見を参考に、今後も地元区の皆様と共に地域貢献に努めてまいります。



## 大豆島甚句祭りに参加

長野市の無形文化財である長野市大豆島（まめじま）地区の『大豆島甚句祭り』が 7 月に開催されました。

4 年ぶりの開催ということもあり会場は活気に溢れており、当社からは約 60 名が参加し、皆で一緒に楽しく大いに盛り上がりました。今後も地域の皆様との交流の場を大切にして、継続してまいります。





## 新工場落成記念講演会を開催

2024年2月6日 ホテルメトロポリタン長野にて、本社第3工場の落成記念講演会を開催させて頂きました。講演会は、善光寺木遣り保存会様の木遣りで幕を開け、代表取締役木下繁夫の挨拶からスタートしました。若林健太衆議院議員や萩原健司長野市長にもご臨席を賜り祝辞を頂戴しました。講演のテーマは「元気と知恵の経営」であり、BS テレビ東京「一柳良雄が問う 日本の未来」の TV キャスターとしてお馴染みの株式会社一柳アンソニエツ代表取締役&CEO の一柳良雄氏を講師にお迎えしました。混迷する時代でリーダーに求められる事等について、ユーモアを交えながら熱く語って頂きました。満席の会場の皆様も、メモをとりながら一柳先生の話に引き込まれた事と思います。この講演会は、秋古工場が地滑りにより被災し、その影響を受けた事を受け、本社第3工場として最新鋭の設備を整え、より力強く復興する第一歩となりました。



## 創業記念式典・記念植樹

当社は1948年8月1日の創業以降、日頃よりお世話になっている皆様のご厚誼により今年75周年を迎える事が出来ました。8月1日に創業記念式典を行い、本社社屋前にて社長の木下による「記念植樹」を行いました。この植樹は、カーボンゼロに向けた当社の取組みの第一歩であり、毎年継続してまいります。



## 報道関係者向けの視察会を実施し 様々なメディアで紹介

2月22日、報道関係者向けに本社第3工場の視察会を実施し、導入したAI搭載の設備や機能等を実際にご覧頂きました。なお今回取材して頂いた本社第3工場の設備や社長インタビュー及び2月6日に開催した落成記念講演会の模様は様々なメディアで紹介されました。

### 【第3工場に関する紹介】

- 2/8 日刊産業新聞
- 2/22 SBC ニュースワイド【SBC 信越放送】
- 2/23 信濃毎日新聞
- 2/23 NBS お昼のニュース【NBS 長野放送】
- 3/1 日刊市況通信
- 3/5 長野経済新聞
- 3/6 日刊資源新報
- 3/9 週刊長野

### 【落成記念講演会に関する紹介】

- 2/15 日刊産業新聞
- 2/26 週刊循環経済新聞



## 世界の子どものワクチンを！ ペットボトルキャップがワクチンに

ワクチンがないために世界で命を落とす子どもは1日4,000人とも言われています。

### 「ワクチンで助かる小さな命を救いたい。」

当社は、ワクチンの支援活動を行っている認定NPO法人JCV（世界の子どものワクチンを日本委員会）に協力し、回収したペットボトルキャップの売却益の一部を寄付させて頂いております。



## 中国 直富希望小学校設立20周年

当社が中国河北省石家庄市藁山区狐山村に建造寄付させて頂いている「直富希望小学校」が設立20周年を迎え、代表取締役の木下をはじめ社員数名で小学校を訪問してまいりました。コロナの影響により互いの交流を中止していた間も含め、直富希望小学校への教育支援は20年間変わらず継続しております。今後も日中友好の架け橋になる人材の育成及び日中友好交流の促進と発展の為、教育支援事業を継続し、国際交流に努めてまいります。



## カンボジアへ井戸を寄贈

当社は『井戸を世界中に22万基掘る会』の活動に賛同し、カンボジアに井戸を寄贈させて頂いております。この度7基目の寄贈が完了し、感謝状を頂きました。世界には、清潔な生活水の確保が困難で不衛生な水環境で生活しなければならないご家庭も多く、健康を害する子供達が後を絶ちません。そんな環境を一つでも改善できるよう、今後も支援活動を継続してまいります。



## 合併会社の環富新保 資源再生利用有限公司に 在瀋陽総領事が視察訪問

中国長春市で設立した合併会社「吉林省環富新保資源再生利用有限公司」に在瀋陽日本国領事館総領事片江学巳様が視察にお見えになりました。片江総領事は、廃棄される自動車の処理工程をご覧になれるのは初めてとの事で、廃車解体工場、前処理場、有害廃棄物保管場所等を熱心に視察されており、廃自動車資源リサイクル産業の見通しと自動車産業チェーンにおける金達洲グループの利点について高く評価して頂きました。視察後、廃車自動車産業の見通し、リサイクル産業網の拡大、企業の生産価値について意見交換が行われ、特にリサイクル可能な中古品品の販売チャンネル、市場シェア、集荷割合について深く関心を持って頂いたようです。今回のご視察を糧に、中国で今後益々多く発生する廃棄自動車を、これからも安全且つクリーンにリサイクルしてまいります。



## 中国・河北省でのマッチングイベントに参加

中国河北省石家庄市内会場で長野県企業（中国出資企業及び観光業者等）と河北省内優良企業によるビジネスマッチングイベントが開催されました。当社も参加させて頂き、貿易分野や中国との更なる事業拡大に向け河北省地元企業と濃厚な商談を行う事が出来ました。当日は、長野県阿部知事を団長とする総勢70名あまりの長野県訪中団の方々も来られ、長野県と中国河北省の友好提携40周年の記念座談会やレセプションも盛大に開催され、日中間の限らない友好が深まりました。このような国際交流が、両国の経済や文化の発展に繋がる事を願っています。



## 中華人民共和国 駐日本国特命全権大使の 呉江浩様が来社

中華人民共和国 駐日本国特命全権大使の呉江浩様御一行様が、木下相談役夫妻・木下社長へ挨拶にお見えになり、併せて中国資料館「なるとみ川端記念館」を見学されました。



## 電線くず自動回収 装置を開発、設置

現場からの改善要望に応え、技術研究室が設計・開発した『電線くず自動回収装置（写真の黄色点線部分）』を設置しました。これにより1日90分要していた清掃時間が大幅に短縮され、異物除去等の前処理作業に費やせる時間を増やす事が出来、より品質の高い銅ナゲットを生産する事が可能となりました。



## リチウムイオンバッテリー搭載 フォークリフトを導入

東御営業所で環境負荷物質を使用しないリチウムイオンバッテリーを搭載したフォークリフトを導入しました。リチウムイオンバッテリーを搭載したフォークリフトの導入は、効率性や持続可能性を向上させるだけでなく、生産性や作業環境の改善にも貢献します。また、リチウムイオンバッテリーは、有害物質を含まず、再利用やリサイクルが比較的容易です。これにより、企業の持続可能性への取組みを強化し、環境への負荷を低減します。



## 「SDG sを实践する建築工学の普及」 コンソーシアムキックオフ会に参加

信州大学工学部の高村孝紀教授が立ち上げられた「SDGsを实践する建築工学の普及」コンソーシアムのキックオフ会議（主催：一般社団法人信州産学みらい共創会）に参加させて頂きました。当社は、このコンソーシアムの主要テーマの一つである「戸建て住宅建設時に発生する全ての廃棄物の再資源化」の方法を研究するゼロエミ研究会（主催：高村教授）に発定当初から参加・協力させて頂いております。今後も住宅建築に係る廃棄物再資源化に協力し、SDGsの達成に貢献してまいります。



## 自走式芝刈り機を購入

自走式芝刈り機を購入しました。導入により、飛び石養生作業員の削減と草刈り時間の短縮に繋がっています。



## 「医療関連サービスマーク」の認定

一般財団法人医療関連サービス振興会の認定する院内清掃業務に係る「医療関連サービスマーク」の認定を受けました。医療関連サービスマーク制度は、医療機関が業務の一部を外部業者に委託する際に、良質なサービス提供を確保する為の制度です。厚生労働省の基準に適合する業者に委託する事が求められ、認定基準を満たしたサービスに対して医療関連サービスマークが与えられます。認定を受けた企業として、患者様や医療機関様に対して、安心で安全なサービスの提供を行ってまいります。



## 「登録再生利用事業者制度」の更新認定

食品リサイクル法では、優良な再生利用事業者（リサイクル業者）を育成する事を目的として、再生利用事業を的確に実施出来る一定の要件を満たすものを登録再生利用事業者として認定しております。この度苦桃工場では、令和5年5月2日付で農林水産省より「登録再生利用事業者制度」の更新認定を受けました。今後も食品廃棄物の再生利用を促進してまいります。



## 「サスながの」キックオフミーティングへ参加

「企業」が、災害ボランティア運営の中核を担う「社協」とパートナーシップを組み、災害に強い地域づくり貢献する為の災害ボランティア応援企業パートナーズ「サスながの」の趣旨に賛同し、キックオフミーティングに参加しました。今後の活動を通じ、社協、応援企業との関係づくりに取組みます。



## 御取引先の安全大会にて 講師として講演を行いました

岡谷酸素株式会社様主催の安全大会にて『建設工事に係る産業廃棄物の適正処理について』を題目とした講演をさせて頂きました。廃棄物処理法の基礎、廃棄物の処理責任、処理委託契約、マニフェスト、業界の今後の見通し等についてお話させて頂きました。



## 信州大学の講座で講義を行いました

信州大学全学教育センター『環境マインド実践基礎論』のゲスト講師として講義を行いました。全学教育センターとは、信州大学の8つの学部が連携し、全学部一貫で共通教育を受ける事で、必要な知識や教養の習得、問題解決能力、探求力の開発等を目的としたもので、民間企業や自治体等の実務者から直接学ぶ機会として外部講師による授業等が開講されています。今回、「SDGsを踏まえた直富商事の取組 資源循環・脱炭素化への課題」をテーマに講義させて頂きました。学生の皆様には大変熱心にお話を聞いて頂くと共に、質疑では、脱炭素の取組みやポリ塩化ビニルの処理方法、太陽光パネルの処理方法等多くの質問を頂き、環境について非常に高い関心がある事を強く感じました。今回の講義が今後の学びに活かさせて頂けましたら幸いです。



## 「長野県SDG s推進企業登録」を更新

「長野県 SDGs 推進企業登録」の更新を行いました。当社の重点的な3つの取組みは、2030年への目標達成に向けて進んでおります。会社として取組むことはもちろんの事、社員一人ひとりがSDGsの17の目標の中で出来る事とを実行し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。



## 環境方針 基本理念

弊社は循環型社会の担い手として“安全はすべてに優先する”“美と心地よさを残す”の企業理念に基づき、人間の社会活動と地球環境の保全との調和に貢献する事を旨とすと共に、自らが及ぼす環境への負荷を軽減し、もって地域住民との協調を図ります。

### 弊社の事業活動が環境に与える影響を考慮し次の項目を重点事項として取組めます。

- ①お客様の環境負荷低減の為にあらゆる廃棄物の再資源化に取組み、循環型社会の形成に寄与します。
- ②省資源・省エネルギーを推進します。
- ③大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等の環境に与える影響を低減し、環境汚染の防止を図ります。
- ④花と緑に囲まれた工場を創造・維持し、地域環境との調和を図ります。

## 環境マネジメントシステム

環境保全に貢献する為、ISO14001の登録認証を受け、環境マネジメントシステムに取り組んでいます。

事業活動の目標達成がISOの目標と連動する仕組みの中で、エネルギーの効率的運用、廃棄物の再資源化、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

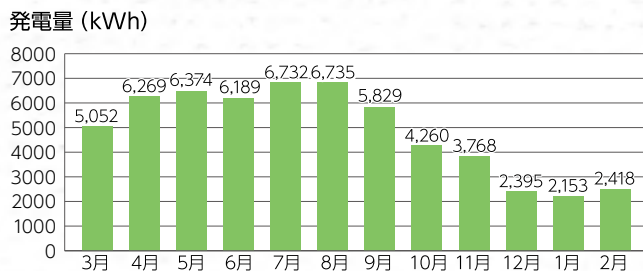


本社・本社工場・第2工場  
秋古工場・市場事業所



## 太陽光発電システム

本社第2工場の屋根に太陽光発電パネル270枚を設置し、地球環境に配慮した負荷の少ないクリーンエネルギーの普及・啓発活動を行っています。



## フロン排出抑制法対応実績 (2023年度)

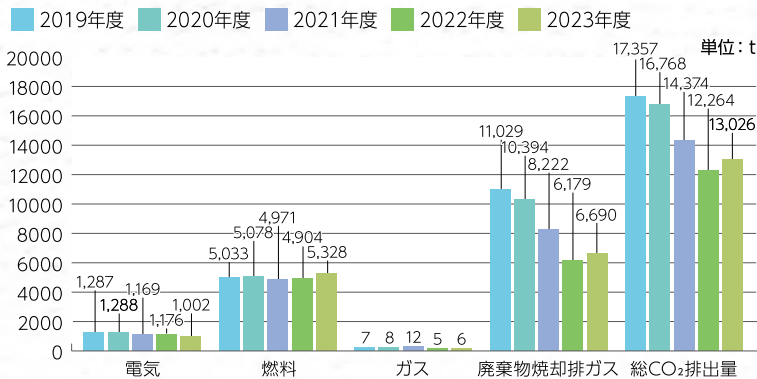
オゾン層の破壊、地球温暖化といった地球環境への影響から、「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）」が制定され、フロン類を適正に管理する事が求められており、当社は、第一種フロン類充填回収許可業者として、適切に引取りし管理しております。

フロン排出抑制法に基づき、  
引取りを実施した状況は次のとおりです。

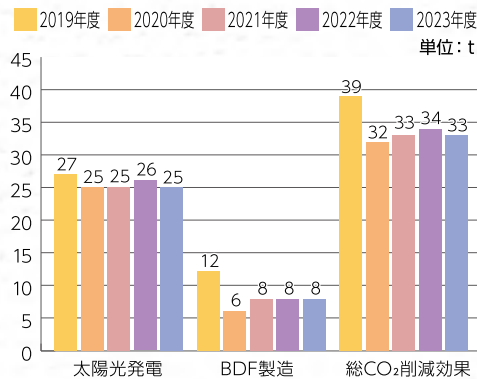
フロン類 (引取量) 1,370.94kg

## CO<sub>2</sub>データ

CO<sub>2</sub>排出量 (t-CO<sub>2</sub>/y)



CO<sub>2</sub>削減効果 (t-CO<sub>2</sub>/y)



## 環境測定データ

工場における環境保全対策として、臭気、排水水質、騒音、振動等の項目を定期的に測定しています。

測定の結果、全ての項目で法令又は自主基準を遵守する結果となりました。周辺住民の方や社員に健康被害を及ぼす事の無いよう管理しています。



### ●排ガス関係(ばい煙発生施設)

| 測定項目名【単位】                                     | 秋古工場廃棄物焼却炉 |       |         | 苦桃工場蒸気ボイラー |       |         |
|-----------------------------------------------|------------|-------|---------|------------|-------|---------|
|                                               | 排出基準       | 結果    | 測定年月    | 排出基準       | 結果    | 測定年月    |
| ばいじん量酸素補正值【g/m <sup>3</sup> 】                 | 0.25       | 0.014 | 2023年9月 | 0.3        | 0.001 | 2023年7月 |
| 硫黄酸化物排出量【m <sup>3</sup> /h】                   | 5.2        | <0.2  | 2023年9月 | 1.7        | 0.021 | 2023年7月 |
| 窒素酸化物量酸素補正值【cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> 】 | 法的基準なし     | 56    | 2023年9月 | 260        | 57    | 2023年7月 |
| 塩化水素量酸素補正值【mg/m <sup>3</sup> 】                | 700        | 59    | 2023年9月 |            |       |         |
| 全水銀【μg/m <sup>3</sup> 】                       | 50         | 2.0   | 2023年9月 |            |       |         |
| ダイオキシン類【ng-TEQ/m <sup>3</sup> 】               | 10         | 0.75  | 2023年3月 |            |       |         |

### ●工場敷地境界・周辺の臭気測定結果

| 測定項目名【単位】 | 基準  | 秋古工場周辺環境<br>2023年12月22日 | 苦桃工場風下周辺環境<br>2023年7月12日 | 東御営業所風下敷地境界<br>2023年5月10日 |
|-----------|-----|-------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 臭気指数      | なし  | < 10                    | < 10                     | —                         |
| スチレン【ppm】 | 0.8 | —                       | —                        | < 0.03                    |

### ●排水水質測定結果

| 測定項目名<br>【単位：mg/L (pHは無単位)】   | 一律排水<br>基準 | 本社工場北側<br>2023年12月15日 | 本社工場南側<br>2023年12月15日 | 秋古工場<br>2023年10月16日 | 市場事業所洗車場<br>2023年7月20日 | 苦桃工場<br>2023年10月12日 | 東御営業所<br>2023年5月10日 |
|-------------------------------|------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|------------------------|---------------------|---------------------|
| 水素イオン濃度 (pH)                  | 5.8～8.6    | 7.2                   | 7.3                   | 7.4                 | 6.2                    | 7.0                 | 7.2                 |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD)              | 160(600*)  | 1.3                   | 3.1                   | 5.0                 | 160*                   | 2.5                 | —                   |
| 浮遊物質 (SS)                     | 200(600*)  | 2                     | 2                     | 4                   | 24*                    | <1                  | 19                  |
| ノルマルヘキサン抽出物 (鉱油類)             | 5          | <1.0                  | <1.0                  | <1.0                | <1.0                   | <1.0                | <1.0                |
| ノルマルヘキサン抽出物 (動植物油脂類)          | 30         | <1.0                  | 3.8                   | <1.0                | 8.7                    | <1.0                | 4.0                 |
| カドミウム                         | 0.03       | —                     | —                     | <0.005              | —                      | —                   | —                   |
| シアン                           | 1          | —                     | —                     | <0.01               | —                      | —                   | —                   |
| 鉛                             | 0.1        | —                     | —                     | <0.05               | —                      | —                   | —                   |
| 六価クロム                         | 0.5        | —                     | —                     | <0.02               | —                      | —                   | —                   |
| ひ素                            | 0.1        | —                     | —                     | <0.002              | —                      | —                   | —                   |
| 水銀                            | 0.005      | —                     | —                     | <0.0005             | —                      | —                   | —                   |
| 1, 1, 1-トリクロロエタン              | 3          | —                     | —                     | <0.0005             | —                      | —                   | —                   |
| トリクロロエチレン                     | 0.1        | —                     | —                     | <0.002              | —                      | —                   | —                   |
| テトラクロロエチレン                    | 0.1        | —                     | —                     | <0.0005             | —                      | —                   | —                   |
| ほう素                           | 10         | —                     | —                     | 0.1                 | —                      | —                   | —                   |
| ふっ素                           | 8          | —                     | —                     | 0.16                | —                      | —                   | —                   |
| アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 | 100        | —                     | —                     | 1.5                 | —                      | 2.0                 | —                   |

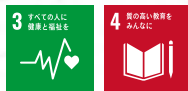
\*長野市下水排除基準に該当。

### ●工場敷地境界・周辺の騒音・振動測定結果

| 測定項目名【単位】  | 工場・営業所 |    | 本社工場        |    | 秋古工場        |    | 苦桃工場                                                                                       |  | 東御営業所      |    |    | 市場事業所      |      |    |            |    |
|------------|--------|----|-------------|----|-------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------|--|------------|----|----|------------|------|----|------------|----|
|            | 測定日    |    | 2023年12月22日 |    | 2023年12月22日 |    | 2023年4月14日                                                                                 |  | 2023年5月10日 |    |    | 2023年7月20日 |      |    |            |    |
|            | 基準     | 騒音 | 自主基準 70     |    | 環境基準 60     |    | 自主基準 65                                                                                    |  | 規制基準 70    |    |    | 規制基準 70    |      |    |            |    |
|            |        | 振動 | 自主基準 70     |    | 保全目標 65     |    | —                                                                                          |  | 規制基準 70    |    |    | 規制基準 70    |      |    |            |    |
|            | 測定地点   |    | 敷地境界        |    |             |    | 直近集落環境 <th colspan="4">敷地境界</th> <th colspan="2">敷地境界</th> <td rowspan="2">直近民家との敷地境界</td> |  | 敷地境界       |    |    |            | 敷地境界 |    | 直近民家との敷地境界 |    |
| 東          |        |    | 西           | 南  | 北           | 東  |                                                                                            |  | 西          | 南  | 北  | 南東         | 北東   | 北西 |            |    |
| 騒音【dB (A)】 |        |    | 60          | 59 | 51          | 59 | 48                                                                                         |  | 63         | 54 | 60 | 48         | 61   | 69 | 62         | 68 |
| 振動【dB】     |        |    | 37          | 35 | 32          | 44 | <30                                                                                        |  | —          | —  | —  | —          | 34   | 34 | 37         | 37 |

\*<は、定量下限値未満を示します。

# コンプライアンス・リスク管理



## 基本方針

1. 経営理念を具現化する為に、社員への遵法・環境教育を充実させ、教育内容の周知徹底及び浸透を図る
2. 廃棄物処理法違反を起こさない

## 遵法報告

2023年度、行政処分、行政指導はありませんでした。

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守すべく、設備の点検記録、 manifests の置き場管理等の社内独自ルールを整備、内部監査制度を活用し、違反を未然に防止する対策を講じています。

## 廃棄物の知識を深める

廃棄物処理業者として、社員の廃棄物に関する法律の理解は必須です。知識を深める為、コンプライアンス担当主催の「遵法勉強会」を毎月開催しています。勉強会の動画データを専用サイトにて公開し、繰り返し視聴して学習出来る環境を整えております。また、必要に応じて外部研修の受講により専門的な知識を深め、社内勉強会で周知徹底を図っています。



## 2023年度に実施した遵法勉強会の内容

- 廃棄物の保管基準・廃棄物の設置許可
- 処理業許可の事業範囲変更点
- 印紙の取扱い
- 廃棄物処理委託契約書
- 廃棄物の種類、区分、業種指定
- コンプライアンスマニュアル
- フロン排出抑制法
- 本社第3工場処理業許可
- 本社第3工場の廃棄物処理設備
- 廃棄物処理業の罰則・欠格要件
- 本社第3工場稼働に伴う許可内容・注意事項
- コンプライアンス研修



## コンプラHOT LINE

法律違反、不正行為等のコンプライアンス問題の発生やその危険性を感じた社員が、社外に設置した窓口に直接通報出来る仕組みです。会社や社員が、違反している（しようとしている）、ハラスメントを受けた（目撃した）といった、社内では告発し難い事項を通報する事が出来ます。

## 内部監査

近年、企業の不正や不祥事が社会問題となり、ガバナンス強化が叫ばれていることから、当社の行動指針である「安全・遵法第一」に基づき内部監査制度を導入しています。その結果、各部門のリスク管理レベルは着実に向上しています。

## 情報セキュリティマネジメントシステム

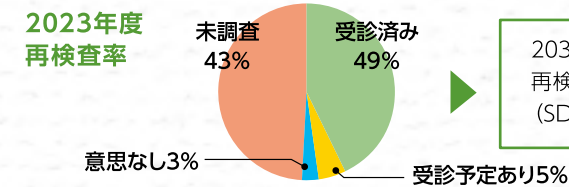
お客様からお預かりした機密書類や廃OA機器の処理を行う過程において、情報漏洩の防止の観点から、2017年4月に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS：Information Security Management System）の国際規格である、「ISO/IEC 27001:2013 / JIS Q 27001:2014」認証を取得し、セキュリティの向上及び改善活動に取り組んでまいりましたが、これらの取り組みを継続した結果、情報セキュリティ活動の確立が社内に浸透し、当初の導入目的を達成した為、2022年度版への移行期間にあわせて2023年12月末日をもって、ISO27001の認証を自主返上致しました。

# 健康への取り組み



## 健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）認定

経済産業省及び日本健康会議が運営する健康経営優良法人認定制度において、健康診断再検査の推奨、ストレスチェック 100%実施等の取り組みが評価され、健康経営優良法人 2024（中小規模法人部門）に認定されました。

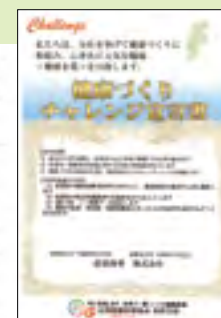


## 健康づくりチャレンジ宣言

全国健康保険協会 長野支部の「健康づくりチャレンジ宣言」に登録し、心身共に元気な職場『健康企業』を目指しています。

### 活動内容

1. 社員の健康管理、健康増進の為の情報を、社内ツールを活用して発信
2. 定期健康診断の結果、要治療、要精密検査となった方への再受診を推奨



## 健康・医療に関する無料相談サービス



## 特定保健指導

生活習慣病の重症化を防ぐ為、保健師による生活改善指導を実施しています。2023年度は2月に計30名を対象に実施しました。



## 産業医健康相談

- 長時間勤務の人
- メンタルも含めて不安な事がある人
- 健康診断の結果についてより深く知りたい人
- ケガ（労災等）からの職場復帰相談



産業医健康相談

産業医より提出される報告書から、配慮すべき事項の指導を受け、会社として社員の健康管理に役立てています。

## 病氣入院補償制度

社員が病氣入院を余儀無くされた場合に、メンタル面及び費用の面で会社がサポートしています。

# 安全衛生の取り組み



## 基本方針

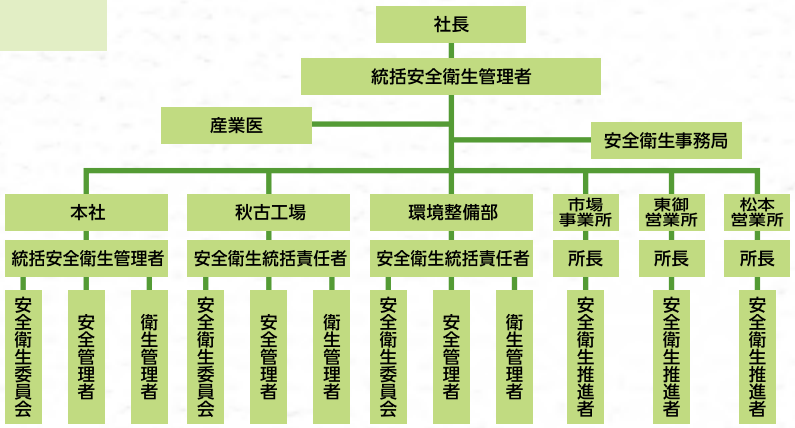
- 事故を起こさない、社員にケガをさせない
- 安全衛生活動のレベルアップ

## 2023年度安全衛生スローガン

目で見て確認 声出し確認 今日も一日 安全作業 (優秀賞) 解体工事部 小湊将

## 安全推進体制

各拠点の責任者で安全衛生委員等を選任し、安全衛生に関する方針の立案、活動の推進、指導を継続し、安全衛生活動に取り組んでいます。



## 安全大会開催

産業廃棄物中間処理工場である秋古工場にて安全大会を開催しました。安全第一を再確認する為、各自が今期掲げた安全宣言に対する達成状況や反省点、また今後の意気込み等を、一人ひとり発表しました。今後も一人ひとりが安全の基本ルールを遵守し、事故ゼロを目指します。

## アルコールチェッカー

酒気帯び運転対策として、全従業員を対象にアルコールチェッカーにて呼気中のアルコール濃度を測定しています。万が一、アルコールを検出した場合は、車を運転せず帰宅する事を義務付けています。

## ドライブレコーダーの活用

収集車両、営業車両、その他社用車のほぼ100%にドライブレコーダーを搭載し、事故防止に努めています。ドライバー自身が運転特性を把握する事で、安全運転を意識する事にも繋がり、万が一事故を起こしてしまった場合に、レコーダーの記録をもとに原因を分析し、今後の対策に繋がります。

## 安全・遵法パトロール

安全且つ法律に則り作業を行っているか、毎月パトロールを実施しています。指摘事項が見つかった場合は、進捗管理を行い、是正を義務付けます。

2023年度指摘件数:100件 整理整頓、不安全行動、不安全状態を指摘しました。

### 指摘例①



重機周辺の整理整頓ができていませんでした。

### 改善例①



整理整頓をして作業性が向上

### 指摘例②



投入口への転落の危険性あり

### 改善例②



LEDによる危険箇所の表示を実施

## 安全の取り組み

住宅街での交通事故事例のビデオ放映会、交通ヒヤリハットマップの作成と社内周知、交通事故当事者への再教育、トラック同乗指導者教育、雪道運転の交通安全ビデオ放映、チェーンの巻き方講習会、フォークリフト及び工場に危険区域を示す安全用LEDライトの取付

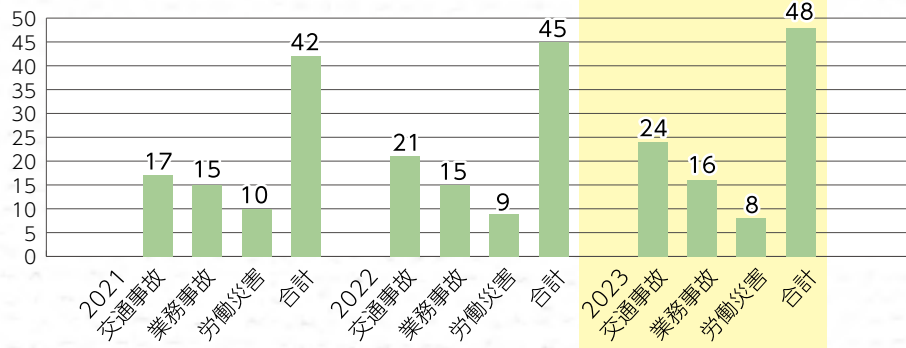
## 外部講師による勉強会開催

外部から専門家を講師として招き、社内の有資格者を対象とした勉強会を開催しました。専門家からの解説やデモンストレーションを通じて、正しい操作手順や事故防止の為の注意点等が徹底的に指導されました。このような勉強会は、従業員の技能向上や安全意識の向上に貢献するだけでなく、労働災害の予防にも大きく寄与し今後も定期的に安全教育や勉強会を実施し、従業員の安全を確保していくことが重要です。

開催した勉強会:天井クレーン勉強会、トラック積載型クレーン勉強会、フォークリフト勉強会、交通安全勉強会

## 事故発生報告

### ● 事故発生件数(年度別比較)



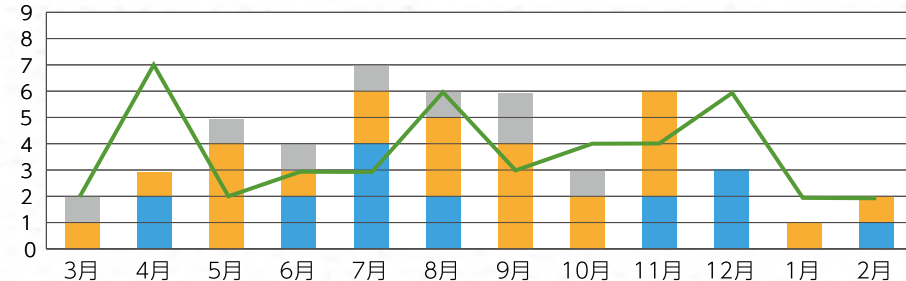
所有車両数:約290台  
(2024年2月末現在)

### ● 事故発生件数目標と実績

| 2023年度 |     | 達成度      | 2024年度 |
|--------|-----|----------|--------|
| 目標     | 実績  |          | 目標     |
| 年間21件  | 48件 | 未達(+27件) | 年間24件  |

今年度は部門毎に設定した事故削減目標を達成できた部門は4部門のみでした。来年度は各部門で立てた目標を達成できるように事故削減に繋がります。

### ● 事故発生件数(月別比較)



事故の原因を見ると、確認不足が半分以上を占めています。「慌てない」「無理しない」「しっかり確認」の合言葉を徹底します。キャリア3年未満の方の事故が多く、今年度は過去5年以内に事故当事者となった方の繰り返しの事故が半分以上を占めていました。独り立ちをさせるまでの教育はもちろんの事、事故当事者への再教育も充実させ、事故防止を図ってまいります。

### ● 事故防止対策

1. 再発防止…原因を正確に把握し、効果的且つ実行可能な対策を実施する。
2. 予防対策 (1) KY活動…運転・作業の中に潜んでいる危険を予知し、それを回避する。  
(2) リスクアセスメント…作業中のリスクを把握・評価し、リスクのレベルを低減する。  
(3) 5S活動…作業場の不安全状態を取り除く。  
(4) 他山の石…他企業等で発生した事故を教訓とし、同種の事故を起こさない。
3. 社員の意識の向上…社員一人ひとりが、事故を起こさないという強い意識を持つ。

## 年間安全表彰

年間を通して安全衛生に係る改善・改革等が特に優れ、労働災害の減少を図り、他のグループの模範と認められる優れた部門を表彰しています。



最優秀表彰

### 市場事業所

工場内作業、収集運搬業務ともに年間を通して事故ゼロを全社で唯一達成!



優秀表彰

### 環境部

多くの車両を抱えて作業を行う中で全社平均より少ない事故件数を達成!

### JR事業部

複数拠点での多岐にわたる業務において全社平均を上回る事故削減率と事故件数を達成!

### 環境整備部

多くのスタッフと現場を抱える中、事故の発生件数を基準値以下に抑えた!

# スポーツ支援

## スピードスケート



2020年度より当社に所属している、スピードスケート山田梨央選手を応援しています！第30回全日本スピードスケート距離別選手権大会での結果を受け、今シーズンはワールドカップへの出場を果たしました。ワールドカップでは、世界の強豪選手と肩を並べ健闘しました。

### 2023年シーズン結果

#### ●第30回全日本スピードスケート距離別選手権大会結果

開催期間：2023年10月20日～2023年10月22日 開催地：日本 長野県長野

500m (38秒59) 3位 1000m (1分16秒58) 3位

#### ●2024 ISU四大陸スピードスケート選手権大会結果

開催期間：2024年1月19日～2024年1月21日 開催地：アメリカ ソルトレークシティ

500m (37秒96) 7位 1000m (1分14秒28) 5位

#### ●2023/24 ISUワールドカップスピードスケート競技大会 ソルトレークシティ大会

開催期間：2024年1月26日～2024年1月28日 開催地：アメリカ ソルトレークシティ 1000m (1分13秒95) 7位

#### ●2023/24 ISUワールドカップスピードスケート競技大会 ケベック大会

開催期間：2024年2月2日～2024年2月4日 開催地：カナダ ケベック 500m (38秒26) 4位

※一部大会のみ抜粋して掲載。  
その他大会結果は当社ホームページでご覧頂けます。

## 信越硬式野球クラブ

当社社員の成澤圭祐選手が、長野市の社会人野球チームである『信越硬式野球クラブ』で活躍しました。2023年シーズンは、9月に行われた日本選手権最終予選 北信越地区大会で見事優勝、日本選手権本大会へ出場しました。日本選手権では、1回戦企業チームの日本新薬を5-2で降し、2009年以来となる初戦突破を果たしました。続く2回戦の西濃運輸戦では0対5で惜しくも敗退し、残念ながら準々決勝進出を逃しました。成澤選手は信越クラブの切込み隊長として攻守にわたりチームに大きく貢献しました。



# ダイバーシティへの取り組み

## ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境づくり

持続的な企業価値向上の実現には、「人」こそが原動力の源であり、あらゆる多様性を尊重し、社員一人ひとりが自らの強みを最大限発揮出来る職場づくりに取り組む事は、企業の成長へ、そしてステークホルダーの成長へと繋がります。社員一人ひとりが使命感を持って自発的・積極的に挑戦出来ると共に、能力と意欲ある社員が適正に評価され活躍出来る組織を目指し、互いの個性を受け入れ、組織として活かしあえる職場環境づくりを目指します。また、社員一人ひとりが仕事と私生活を両立させる事が出来、ライフステージに合わせて柔軟な働き方を選択しながら安心して働ける環境をつくる事により、能力を最大限発揮出来る職場を目指しています。

### ～人事・労務データ～（2024年2月末現在）

| 社員数  |            | 新卒採用<br>(男性/女性) | 新卒5年<br>未満の<br>離職率 | 平均<br>勤続年数 | 障がい者<br>雇用<br>社員数 | 定年後<br>再雇用<br>社員数 | 産休育休中<br>社員数 |
|------|------------|-----------------|--------------------|------------|-------------------|-------------------|--------------|
| 合 計  | 男女比(男性/女性) |                 |                    |            |                   |                   |              |
| 687名 | 396名/291名  | 1名(男性1名)        | 10.5%              | 9.68年      | 11名               | 19名               | 8名           |

### ●長野県社員の子育て応援宣言

社員一人ひとりのワークライフバランスを推進する為、子育てしやすい環境を整備し、安心して育児が出来る環境づくりを目指し、「社員の子育て応援宣言」を掲げています。この度第4期目（登録期間：2024年1月9日～2026年1月8日）の登録が完了しました。

#### 宣言内容

1. 育児休業規程を積極的に周知し、取得しやすい雰囲気作りに努めます。
2. 子どもを持つ社員の学校行事やPTA活動への参加を推奨します。



### ●長野県職場いきいきアドバンスカンパニー アドバンスプラス認証

長野県「職場いきいきアドバンスカンパニー」認証更新（2023年7月1日～2025年6月30日）を行いました。この度の更新で、「ワークライフバランスコース」「ダイバーシティコース」「ネクストジェネレーションコース」の3コース全てが認証された事により「アドバンスプラス」という上位認証を頂きました。

#### 職場いきいき アドバンスカンパニー 認証とは

仕事と家庭の両立が出来る職場環境の改善や雇用の安定を進め従業員がいきいきと働き続けられるよう短時間正社員制度等多様な働き方等の制度を導入し、実践的な取り組みを行っている企業・法人・団体・個人事業主が認証される長野県の制度です。



### ●能力開発（資格取得応援制度）

社員がスキルアップの為に資格取得に取り組む事を奨励・支援する制度です。組織の活性化や社員の成長意欲向上を目的とし、今年度は3名の社員が資格を取得しています。

該当資格（一例）：e c o 検定、ビジネスマネジャー検定、コミュニケーション検定、産業廃棄物処理検定、秘書検定 等

### ●懇親会補助制度

普段一緒に仕事をしている部署の仲間と、情報共有やお互いの親睦を深める事を目的とした懇親会を定期的に関き、年に2回1人あたり3,000円を懇親会費として補助しています。

### ●その他

社内報発行（隔月）、人事考課制度、正社員登用制度、成人祝い金、永年勤続表彰、お子様小学校入学祝金



### ●年間優秀社員表彰

毎年、各分野で活躍する優秀社員へ表彰を行っています。

社員のモチベーションアップを図り、活気のある職場づくりへと繋げます。

#### 👑 最優秀社員



吉越 悠太  
Yuta Yoshikoshi  
(技術研究室)

#### 👑 優秀ドライバー職



伊藤 崇  
Takashi Ito  
(環境部 浄掃G)



小野澤 譲  
Yuzuru Onozawa  
(東御営業所)



小橋 勇武  
Isamu Kohashi  
(産廃部)



小橋 緑一  
Ryui Kohashi  
(環境部)



高橋 悟  
Satoru Takahashi  
(産廃部)



西澤 和幸  
Kazuyuki Nishizawa  
(環境部)



降旗 彰  
Akira Hurihata  
(松本営業所)

#### 👑 優秀ヤード職



荻原 貴之  
Takayuki Ogiwara  
(JR事業部)

#### 👑 優秀営業職



小野沢 智朗  
Tomoaki Onozawa  
(原料部)



小林 翔伍  
Shogo Kobayashi  
(環境部)

#### 👑 優秀事務員



岡村 弥美  
Hiromi Okamura  
(JR事業部)



小林 早苗  
Sanae Kobayashi  
(環境部)



佐藤 葵  
Aoi Sato  
(解体工事部)



馬場 景子  
Keiko Baba  
(総務部)

### ●育児と仕事の両立支援

#### 産前産後休業・育児休業制度

この制度は原則として子が2歳に達するまで休暇を取得出来ます。性別・年齢問わず多様な人材が活躍し、休暇取得後も安心して働き続けられる環境づくりをしています。



#### 出生時育児休業（産後パパ育休）

育児休業制度とは別に子どもの出生後8週間以内に4週間を上限に育児休業を取得出来ます。男性社員の育休取得率も年々向上しています。

2023年度育児休業取得率(出生時育児休業含む) 女性100% (対象者2名/取得者2名) 男性71% (対象者7名/取得者5名) 育児休業取得率…2023年度中に新たに育児休業の取得が可能となった社員数に対する2023年中に新たに育児休業を取得した社員数の割合

#### 育児短時間勤務制度

子どもが満3歳になるまで短時間勤務出来る制度を導入しています。

### ●介護と仕事の両立支援

#### 介護休業制度

要介護状態の家族一人について、93日の範囲内で3回を上限として休業を取得出来ます。

### ●高齢者の社員の活躍

定年退職後、再雇用制度を利用して60歳以上の方が活躍しています。長年の経験やスキルに基づく人脈やノウハウを活用する事が出来るほか、多様な価値観を社内に取り込み、活性化を図る事が出来ます。

### ●障がいのある社員の活躍

障がいのある方が様々な職場で活躍しています。作業環境の改善等、働きやすい職場づくりのきっかけとなっています。



## 友好会活動

社員親睦会である『友好会』を結成し、社員が主体となり様々な行事を企画運営しています。2023 年度も盛りだくさんの内容で行事が開催されました。こうした行事では、普段行き会う事が少ない遠方の営業所の仲間と交流し、コミュニケーションをとる事が出来ます。

### 2023年度活動実績

| 開催月 | 活動内容                          |
|-----|-------------------------------|
| 6月  | 社員旅行(東北コース/大阪コース/金沢コース)       |
| 7月  | 大豆島甚句祭り                       |
| 9月  | 信越硬式野球クラブ地区予選決勝戦応援ツアー(富山県富山市) |
| 10月 | ソフトボール大会&BBQ大会                |
| 11月 | ゴルフコンペ(篠ノ井ゴルフパークウィーゴ)         |
| 通年  | エコキャップ回収、エコターミナル設置(資源物回収)     |



◎編集方針 …… 本報告書は、直富商事の全事業について掲載すると共に、環境及び社会的側面における活動実績を報告しています。

◎報告対象期間 …2023年度(2023年3月1日～2024年2月29日) ◎発行年月 …… 2024年5月

お問い合わせ先 直富商事株式会社 管理本部 コンプライアンス・広報部 TEL/026-222-1880 FAX/026-222-1881